

## 学会だより

### ◎日本天文学会昭和49年度秋季年会記事

昭和49年度秋季年会は岐阜県高山市のグリーンホテルに於て10月2日(水)～4日(金)の三日間にわたって開催された。講演数100, 出席者数約250名, 各セッションの座長には次の方々をお願いした。

- 2日午前 末元善三郎, 川口市郎  
午後 小尾信弥, 河鱈公昭  
3日午前 石田五郎, 高窪啓弥  
午後 高瀬文志郎, 上野季夫  
4日午前 飯島重孝, 須川力

4日の午後はエクスカッションとして飛騨天文台の見学にあてられ, 約110名の会員が参加した。会期中2日の昼に理事会, 3日の昼に大塚奨学金選考委員会, 夜に懇親会が開かれた。尚今回は, 相続く物価高騰に伴ってひっ迫して来た会の財政状態を少しでも多くの会員に知って頂き, 来年度会費値上げの方針に御協力を得るべく, 3日午前のセッションに引続き財政状態説明会が持たれた。

#### 大塚奨学金

年会中の大塚奨学金選考委員会に於て申請のあった4人の候補について選考を行った結果, 同奨学金は小島信久氏(愛知県一色町立一色中学校教諭)に交付される事が決定した。小島氏は東京天文台天体搜索部に内地留学, 短焦点反射鏡による彗星及び小惑星の位置観測精度の研究を行う。奨学金8万円が支給される。

#### 財政状態説明会

3日11時半より約1時間にわたって約110名の出席者

を得て, 会の財政状態説明会が行われた(座長田中春夫氏)。先ず庶務理事より, 1) 積年のインフレに加えて昨年末の物価狂乱により学会の財政が強く圧迫され, 昭和46年より据置いて来た学会会費の改訂が避けられない事態に立ち至った事, 2) 検討の結果値上げは約2倍と云う大幅なものが必要で, この内容について出来るだけ多くの理解を得ておく必要があるので, 天文月報を通じてPRをする他, 今秋の年会期間中に財政説明会を開くことにした事, 3) 会費改訂の提案手続としては今回準備した説明会資料に基き, それに来春迄のインフレ進行状況等を勘案した最終案を来春の評議員会に提出し, 春季総会で承認を得ることを考えている事, 等の背景の説明があり, つづいて会計理事から本会の会計収支についての詳しい資料の配布, 説明があった。会計理事からの説明のサマリーとしては, 例えば48年度には支出合計は1250万円程度, 会費収入420万円程度, 会費外収入760万円程度(差額は赤字)であったのが昭和50年度推定支出は主に印刷費等の高騰の為1900万円程度に達する見込みで, 他方会費外収入は最大限に種々の努力をしても約1200万円位に止まる為, これを埋める為には730万円以上の会費実収入が必要となる。会員数はさほど伸びないと推定されるので, 会費納入率が従来よりかなり改善されたとしても, 特別会費10,000~12,000円, 通常会員3,500~4,000円程度の会費に改訂する必要があると云う事になる。会計理事からの詳しいデータの説明に引き続いて質疑応答が行われたが, 大方の感じとしては, この物価高騰の折から, 46年に決めた会費がここで約2倍に改訂されることは, 止むを得ないのではないかと云う空気があった様に思われた。(文責庶務理事)

#### 1974年10月の太陽黒点 ( $g, f$ ) (東京天文台)

1	4,	30	6	9,	36	11	6,	178	16	2,	51	21	1,	8	26	2,	8
2	3,	42	7	8,	68	12	—,	—	17	2,	31	22	—,	—	27	—,	—
3	—,	—	8	7,	117	13	—,	—	18	1,	13	23	1,	3	28	4,	11
4	5,	27	9	7,	116	14	3,	115	19	1,	6	24	0,	0	29	2,	5
5	6,	41	10	8,	143	15	2,	89	20	—,	—	25	1,	4	30	—,	—
															31	—,	—

(相対数月平均値: 62.4)

昭和49年12月20日 編集兼発行人 〒181 東京都三鷹市東京天文台内  
印刷発行 印刷所 〒112 東京都文京区水道2-7-5  
定価300円 発行所 〒181 東京都三鷹市東京天文台内  
電話武蔵野31局(0422-31)1359

森本雅樹  
啓文堂松本印刷  
社団法人日本天文学会  
振替口座東京 13595